

TANBAの九人展VI

―丹波の自然に抱かれて―

令和8年6月16日(火)～21日(日)

生物学者の今西錦司は「自然は完成しているがゆえに、にわかには変わらない」という。中国陶磁は左右対称で完成された美を表現しているが、それに対して、朝鮮陶磁は不完全な美と言われている。日本のやきものは、その不完全な美の線上にあるが、今西の『私の自然観』を読んで完成された自然の美だと知った。月の満ち欠けを例に出すまでもなく、自然の美はどんなかたちであつても凜としている。それは、自然として完成されたかたちだからだろう。

市野秀作の《丹波灰釉茶碗》は、砂混じりの荒い丹波の原土を用いて、削貫（くりぬき）技法で成形している。藁灰と灰釉を吹き付け、穴窯で三日四晩焼くと、自然釉によって土肌と釉薬が織りなす見事な景色が生まれる。見込みの景色も、高台の景色も共に魅力的である。

大西雅文の《赤丹波船徳利》は、江戸時代の船徳利を写したものだ。成形後に顔料を塗り、竹を用いて焼成すると、その竹の灰の効果によって、正面に見られるような自然な表情や裏面に見られるような赤味のある表情が生まれる。前人未踏の赤丹波の誕生である。

清水圭一の《タンバハナノウツワ》は、前後左右にくねったかたちを手捻りで成形した花器である。アンバランスでありながら、安定したかたちに仕上げているため、見る角度によって表情が異なる。丹波土の力強さを独自の造形で表現した力作である。

清水 剛の《塩窯茶盃》は、登り窯で一三三〇度以上の高温で二日半じっくり焼成した茶盃。塩窯の技法によって生まれた、独特な風合いと美しい青色の輝きが魅力的である。この茶盃は、呉須の塗り方によって生まれた、流れるような模様がなんとも自然でいい。

市野信水の《引出黒茶盃》は、加茂川石（京都加茂川の上流で採取される鉄分を多く含んだ赤褐色の石で、黒楽の原料として用いられる）を使って、小さな炭窯で、焼成中に引き出したもの。釉を刷毛で塗った刷毛跡も面白く、掌（たなこころ）にぴたり収まる杓形茶盃である。

市野雅彦にとって、土は単なる素材ではなく、人生の長い時間が積み重なって、目には見えない記憶がかたちとなっているという。何回も焼き重ねることで、作を超えた自然な表情の《層》が生まれる。《層》には大病から十五年経った、市野の年輪が刻まれている。

今西公彦の《黒丹波削貫茶盃》は、山土と砂気の多い土を合わせて、削貫技法で成形した茶盃である。その豪快な造形は、古い窯跡がある山城の石垣をイメージしたもの。古城の石垣を眺めていると、アートだと思ふ時がある。今西の繊細な感性から生まれた傑作である。

清水万佐年の《蛇式窯変茶碗》は丹波の赤土と磁土をブレンドした土を使い、赤松、雑木、竹などを用いて蛇窯で焼成した茶碗。赤褐色に窯変した土肌に薄黄色の灰釉が掛かり、所々に釉流れが見られる。この茶碗は、釉模様と緊張感あるラインが見どころである。

仲岡信人の《炭化香炉「無窮（むきゆう）」》は、半円を繋ぎ合わせた球体に、小さな円形の摘みと双耳が付けられている。炭化によって黒く焼けた部分と、赤くほんのりと発色した部分が、その造形と共に宇宙空間をイメージし、「無窮」というタイトルが無限の空間を語っている。

森 孝一

（美術評論家・日本陶磁協会常任理事）

記念茶会「TANBA」のご案内

柿傳ギャラリーの上にある茶室にて、本展の記念茶会「TANBA」を開催致します。

茶会に参加された事がない初心の方も大歓迎ですので、丹波ゆかりのお道具で水無月の一服の茶をお楽しみ頂ければ幸いです。皆様からのお申し込みをお待ち申し上げております。

日時 6月17日(水) 11:00、13:00席入の二席

※席入 15分前まで受付・寄付(7階)に集まりください。

席主 出品作家一同

[当日は、市野雅彦、今西公彦、清水剛、清水万佐年が皆様をお迎え致します]

場所 新宿 京懐石 柿傳

東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビル

茶席 受付・寄付「安与ホール(7階)」

↓
薄茶席「残月亭(9階)」

↓
点心席「古今サロン(6階)」

点心 お食事の内容は、小向付、旬菜を盛り込んだ縁高、煮物碗、ご飯と香の物です。
もちろん、美味しい日本酒もふんだんにご用意しております。

会費 7,000 円(税込)

服装 お楽な格好でご自由にどうぞお出掛け下さい。

所要 1時間45分程度

申込 参加ご希望の方は、右の二次元コード又は右頁のお電話かメールからお申し込み下さいませ。

6/17 茶会
申込ページ



TANBAの九人展 VI 一丹波の自然に抱かれて一

会期 令和8年6月16日(火)～21日(日)

会期中無休

開廊時間 11:00～19:00

※最終日の6月21日(日)は17:00まで

出品作家 市野秀作 6月17日(水)～19日(金)

[在廊予定日] 市野信水 6月17日(水)～19日(金)

市野雅彦 6月17日(水)～19日(金)

今西公彦 6月17日(水)、19日(金)

大西雅文 6月18日(木)～20日(土)

清水圭一 6月18日(木)～20日(土)

清水 剛 6月17日(水)～19日(金)

清水万佐年 6月17日(水)～19日(金)

仲岡信人 6月16日(火)～17日(水)

会場

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

〒160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11
安与ビル 地下2階

TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335

MAIL gallery@kakiden.com

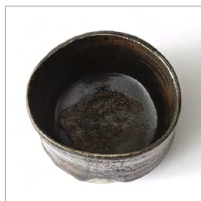


柿傳ギャラリー HP



公式 Instagram





引出黒茶盃
W11.0×D10.0×H9.5 cm

信水窯

市野信水

Ichino Shinsui

昭和32年 兵庫県丹波立杭に初代信水の長男として生まれる
平成元年 日本伝統工芸展 初入選
平成14年 二代「市野信水」を襲名
平成30年 伝統工芸士 認定
全国各地で個展開催
現在、日本工芸会 正会員



丹波灰釉茶碗
W12.0×D12.0×H9.5 cm

省三窯

市野秀作

Ichino Shusaku

昭和61年 兵庫県丹波立杭に生まれる
平成21年 龍谷大学 卒業
平成22年 京都府立陶工高等技術専門校 卒業
平成27年 第62回 日本伝統工芸展 入選 (以降、入選多数)
第5回 神戸ビエンナーレ「現代陶芸コンペティション」大賞
平成29年 第46回 日本伝統工芸近畿展 日本工芸会近畿支部長賞
第7回 菊池ビエンナーレ 入選 (令和元年、令和3年、令和5年、令和7年)
令和3年 第38回 田部美術館「茶の湯の造形展」秀美賞
令和4年 第51回 日本伝統工芸近畿展 日本伝統工芸近畿賞
令和6年 備前現代陶芸ビエンナーレ 入選
現在、日本工芸会 正会員



黒丹波割貫茶盃
W11.5×D11.2×H9.5 cm

今西公彦

Imanishi Masahiko

昭和46年 兵庫県丹波立杭に生まれる
平成7年 京都市立工業試験場 修了。京都 岡本 彰氏宅にて内弟子となる
平成12年 丹波に帰り作陶をはじめる
平成13年 三田市にて築窯
平成22年 篠山市立杭に移る
令和5年 祈 時を超え、つながる「痕跡の美」丹波 今西公彦展（緑ヶ丘美術館、奈良）
令和6年 大徳寺 玉林院にて個展
令和7年 姫路城茶室 鷺庵にて個展
各地にて個展



層
W16.0×D15.7×H13.5 cm

市野雅彦

Ichino Masahiko

昭和36年 兵庫県丹波篠山市に生まれる
平成18年 日本陶磁協会賞
平成22年 現代の茶一造形の自由（菊池寛美記念 智美術館、東京）
現代工芸への視点―茶事をめぐって（東京国立近代美術館工芸館）
平成23年 兵庫県文化賞
平成27年 市野雅彦一軌跡、丹波にて（兵庫陶芸美術館）
平成28年 うつろのかたち―市野雅彦・陶展UTUWA（パラミタミュージアム、三重）
土のおもむくま―市野雅彦展（LIXIL ギャラリー、東京）
近代工芸と茶の湯Ⅱ（東京国立近代美術館工芸館）
平成29年 三越美術110周年HORPS 次世代百選展（日本橋三越本店）
令和2年 国立工芸館石川移転開館記念展 ―工の芸術―素材・わざ・風土（国立工芸館、石川）
令和3年 丹波からTAMBAへ―市野雅彦展（緑ヶ丘美術館、奈良）



タンバ ハナノウツワ
W20.5×D13.5×H41.0 cm

かねと窯
清水圭一

Shimizu Keiichi

昭和 37 年 兵庫県丹波立杭に生まれる
昭和 59 年 家業かねと窯にて作陶を始める
平成 14 年 兵庫県芸術奨励賞
平成 18 年 第2回 菊池ビエンナーレ 奨励賞
平成 22 年 茶の湯の造形展 優秀賞
令和 6 年 兵庫県文化功労者表彰
備前・現代陶芸ビエンナーレ 審査員特別賞



赤丹波船徳利
W15.2×D15.2×H16.7 cm

丹文窯
大西雅文

Oonishi Masafumi

昭和 55 年 丹文窯 4 代目 長男として生まれる
平成 12 年 大阪芸術短期大学部 デザイン美術科工芸専攻 卒業
愛知県瀬戸市 加藤裕重氏（霞仙陶苑）に師事
平成 16 年 立杭 丹文窯にて、作陶を始める
平成 17 年 加古川百貨店にて初個展
その他、個展グループ展多数



蛇式窯変茶碗
W12.6×D12.6×H9.8 cm

千代市陶房

清水万佐年

Shimizu Masatoshi

昭和 59 年 兵庫県丹波立杭に生まれる
平成 20 年 京都府立 陶工高等技術専門学校 卒業
京都 市川博一氏に師事

平成 22 年 丹波立杭に戻る

平成 23 年 高島屋 京都店 美術工芸サロンにて初個展 (平成 26 年、令和 5 年)

平成 29 年 ギャラリーとべとくさにて個展 (平成 29 年～令和 4 年、令和 6 年)

令和 元年 第 36 回 田部美術館 茶の湯の造形展 奨励賞

令和 7 年 日本橋三越本店アートスクエアにて個展



塩窯茶盃
W12.3×D11.6×H9.4 cm

俊彦窯

清水 剛

Shimizu Takeshi

昭和 50 年 兵庫県丹波立杭に生まれる
平成 11 年 京都市立芸術大学 工芸科 卒業、陶芸家 今井政之・眞正氏に師事
平成 29 年 兵庫県芸術奨励賞

平成 30 年 現代茶陶展 TOKI 織部優秀賞 (岐阜県土岐市)

美濃茶盃展 金賞 (岐阜県多治見市)

令和 元年 現代茶陶展 TOKI 織部優秀賞 (岐阜県土岐市)

令和 5 年 現代茶陶展 TOKI 織部優秀賞 (岐阜県土岐市)

令和 6 年 現代茶陶展 TOKI 織部優秀賞 (岐阜県土岐市)

美濃茶盃展 金賞 (岐阜県多治見市)

価格表

	作家名 作品名		本体価格／円 (税込価格／円)	作品サイズ (cm)
1	市野秀作 丹波灰釉茶碗 [桐箱付・後日]	P6	70,000 (77,000)	W12.0×D12.0×H9.5
2	市野信水 引出黒茶盃 [桐箱付・後日]	P7	300,000 (330,000)	W11.0×D10.0×H9.5
3	市野雅彦 層 [桐箱付・後日]	P8	200,000 (220,000)	W16.0×D15.7×H13.5
4	今西公彦 黒丹波割貫茶盃 [桐箱付・後日]	P9	250,000 (275,000)	W11.5×D11.2×H9.5
5	大西雅文 赤丹波船徳利 [桐箱付・後日]	P10	50,000 (55,000)	W15.2×D15.2×H16.7
6	清水圭一 タンバ ハナノウツワ [桐箱付・後日]	P11	300,000 (330,000)	W20.5×D13.5×H41.0
7	清水 剛 塩窯茶盃 [桐箱付・後日]	P12	120,000 (132,000)	W12.3×D11.6×H9.4
8	清水万佐年 蛇式窯変茶碗 [桐箱付・後日]	P13	80,000 (88,000)	W12.6×D12.6×H9.8
9	仲岡信人 炭化香炉「無窮」 [桐箱付・後日]	P14	120,000 (132,000)	[本体] W18.4×D15.0×H16.0



炭化香炉「無窮」

[本体] W18.4×D15.0×H16.0 cm

信濃窯

仲岡信人

Nakaoka Nobuhito

昭和52年 大阪府に生まれる
平成8年 高等学校卒業後、丹波焼作家 西端 正氏に師事
平成13年 京都市工業試験場 陶磁器科 修業
平成18年 篠山市立杭にて独立
平成25年 田部美術館大賞 茶の湯の造形展 優秀賞 (島根県)
神戸ビエンナーレ 2013 現代陶芸コンペティション 準グランプリ
現在形の陶芸 萩大賞展Ⅲ 佳作
平成29年 現代茶陶展 入選 (同 平成31年、令和7年) (岐阜県土岐市)
平成31年 日本陶磁器協会奨励賞 関西展 入選
令和元年 現在形の陶芸 萩大賞展Ⅴ 優秀賞
令和3年 笠間陶芸大賞展2021 入選



160-
0022

東京都新宿区新宿3-37-11

碎ザヤリ

KAKIDEN GALLERY